

平成28年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

<p>《建学の精神》 質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の育成をめざす ○ホスピタリティを重視し、生徒、保護者、教師がともに幸せになれる教育 ○グローバルスタンダードな視点を持ち、社会に通用する力と豊かな心を育む教育</p>

<p>今年度の重点目標 『生徒指導、学習指導を学校運営の両輪として、「鳥取城北生5つの誓い」を実践する。』 1 学校像：多様な進路希望に対応できる教育環境の整備を図り、生徒が伸び得る場をつくる。 2 生徒像：自らの目標の実現に向けて、主体的に行動できる生徒を育てる。 自ら考え責任ある行動ができる生徒を育てる。</p>

年 度 当 初					評 価 結 果 (2) 月			
評価項目	担当	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善点等
1 学 校 像	総務	・同窓会の活動を活性化し、在校生・卒業生・地域の方に周知する。	・同窓会の活動を活性化しようとしているが、十分とはいえない。	・同窓会の行事を行ううえで、学校と協力できる体制ができている。	・同窓会役員と学校側が、情報共有・情報交換を行い、協力し行動していく。	計画的に話し合いが行われ、情報共有・情報交換等、協力できる体制作りができた。	B	今後も計画的に、情報共有・情報交換の機会を持ち、同窓会の発展に協力していく。
	学力向上	・生徒の基礎学力の定着を図る。	・第1回基礎力診断テストにおいて、学習到達度Dゾーンの割合は1年生：70%、2年生：75%。	・第3回外部模試において学習到達度Dゾーンの割合が50%以下。	・普通、総ビ、体育において日廻を実施し小テストを行う。教科担当が小テストを作成(1年生・体育)し授業とのリンクを図る。 ・放課後の居残り・基礎力養成講座の在り方を見直す。	第3回基礎力診断テストにおいて、学習到達Dゾーンの割合は全体で52%に減少した。	B	家庭学習の定着と学習力の向上を目指し、義務教育内容の学び直しと授業内容の定着のため、「日廻」を見直し、授業担当者との連携を図る。
	進学指導	・生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。	H27年度実績 ・3年生：現役国公立大学および難関私立大学合格者延べ35名(卒業生数242名)。 ・2年生：1月進研模試国数英SS50以上17名。 ・1年生：1月進研模試国数英SS50以上31名である。	・3年生：現役国公立大学+難関私立大学合格者延べ数25名(卒業予定者数216名) ・2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上25名 ・1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上60名	・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。 ・大学生との交流会やキャリアデザイン講演会を行い、進学意識を高める。 ・1年生初期指導合宿、3年生夏勉強合宿を実施する。 ・スタディサブリを有効的に活用する。	H28年度実績(3月23日現在) ・3年生：現役国公立大学+難関私立大学合格者延べ数25名 ・2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上26名 ・1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上56名	A	・スタディサブリの活用をさらに進める。 ・1年生初期指導合宿、3年生夏勉強合宿、栄光塾合宿を実施する。 ・低学年から難関大志望者の育成をする。 ・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。
	就職指導	・全学年でキャリア教育を推進し、特に3年就職希望者は採用試験に向けての基礎学力・面接力の向上を図る。	・就職試験への準備がやや遅く就職先の内定までに時間がかかる生徒が多い。	・ガイダンス機能と個別指導の両方を生かし、就職希望者に対する事前・事後指導が徹底できている。 ・就職内定率100%である。 ・第1希望内定率60%。	・校内での教員、講師、ジョブサポーターによるガイダンスと校外でのふるさと定住機構主催によるガイダンスへの参加。 ・ハローワーク等外部の機関との連携を強化し就職未決定者を極力少なくするよう努める。	・ガイダンス機能と個別指導の両方を生かし、就職希望者に対する事前事後指導が好結果につながった。 ・就職内定率100%達成 ・第1希望内定率80%	A	・事業所説明会・就職ガイダンスへ積極的に参加し採用試験に向けての面接力の向上を図る。 ・ハローワーク等の外部機関との連携強化に努める。
	人権教育	・鳥取県がめざす人権教育を基底にし、LHRの充実を図る。	・出身中学により、人権学習に対する学んできた内容の差が大きい。	・生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	・個別面談を利用し、人権に対する意識を持たせる。 ・生徒の実態に応じた学習教材の選定をする。 ・各種研修会や交流会などの参加を促す。 ・公開人権LHRの参加率を高める。	アンケート結果では、各学年ともに90%以上の生徒が人権意識が高まったと回答している。しかし、公開人権LHRの保護者の参観者数は、昨年を下回った。	A	職員研修を増やし、人権教育の意識をさらに高める。
	教育相談	・不安を感じることなく学校生活をおくることができる。	・「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(HyperQ-U)」において「要支援群」に該当する生徒がいる。	・「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(HyperQ-U)」において「要支援群」に該当する生徒が減っている。	・「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(HyperQ-U)」を保健教育部で分析し、その結果を担当、学年団と共有する。また、その内容を日々の生徒指導、保護者懇談にいかしてもらう。	今年度より年一回の実施となった「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(HyperQ-U)」ではあったが、「要支援群」に該当する生徒が近年で最も少なく、特に3年生においては1名もいなかった。	A	担任、学年団、部活動顧問等学校全体で生徒理解、情報共有をすることができた。次年度以降も、より一層連携を深め、生徒が安心して過ごせる体制を維持、強化していきたい。

2 生徒像	教務	<ul style="list-style-type: none"> 『道標』の活用を通して、生徒の生活習慣、学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度1月の道標生徒アンケート結果において、 ほぼ毎日記入している生徒の割合 1年:68%、2年:55%、3年:32% 提出日にはほぼ毎回提出している生徒の割合 1年:74%、2年:59%、3年:37% 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が、毎日記入し、指定日には確実に提出している。 道標を日常的に活用する習慣ができ、面談等における活用率も向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に2回程度の短いサイクルで活用状況を把握するアンケート調査等を行い、活用促進の声掛け等を行っていく。 定期的に便りを発行し、効果的な活用事例とを示していく。 	<p>道標アンケートの結果</p> <table border="1"> <tr> <td>学年</td> <td>毎日記入、指定日の提出</td> </tr> <tr> <td>全校</td> <td>45.2%、53.9%</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>41.6%、49.4%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>58.9%、70.8%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>27.8%、33.1%</td> </tr> </table> <p>アンケート結果は、中間評価よりも低い値となったが、生徒・保護者とのコミュニケーションや生活習慣の定着等について、他の手段も合わせて用いながら円滑に行われているクラスも多い。</p>	学年	毎日記入、指定日の提出	全校	45.2%、53.9%	1年	41.6%、49.4%	2年	58.9%、70.8%	3年	27.8%、33.1%	B	道標の活用について、コースごとに再検討し、生徒やクラスの実態に合わせながら、より有効に活用できるような方策を考えていく。
	学年	毎日記入、指定日の提出																
	全校	45.2%、53.9%																
	1年	41.6%、49.4%																
2年	58.9%、70.8%																	
3年	27.8%、33.1%																	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装違反者を減らし、規律ある生活習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒が違反を繰り返すという傾向がまだみられる。 学期はじめ検査での不合格率がまだ高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回検査合格者（5月検査以降）が全学年80%以上になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 違反者への段階的指導を徹底しておこなう。 身だしなみチェックも活用しながら、日々の指導の積み重ねを大切にする。 必要に応じて家庭連絡をおこなう。 	<p>アンケートの集計から、7割以上の生徒が身だしなみの整えができていると回答。特定の生徒が継続指導が必要と感じる。挨拶等はしっかりとできていると思われる。</p>	B	実施している身だしなみチェックを継続していくことが必要と考えます。また違反者への継続指導も含めて強化していきたい。											
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定のクラス・部活動の参加は良好である。 昨年度の参加率は61.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動がきちんとでき、校内でさわやかな挨拶が交わされる風紀が出来上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動の対する教職員・生徒の意識の向上をはかる。 翌日の担当クラス・部への連絡を徹底し、挨拶運動への参加を粘り強く呼びかける。 	<p>学校生活全般において、活発に挨拶が交わされている。挨拶運動については、9月から3月の7か月間であいさつ当番の参加者はのべ726人、参加率は42.4%であった。</p>	B	執行部の意識を強く持たせる。各クラス担任の参加を、来年度以降も継続し、当番の意識をしっかりと持たせる。また、全職員・全校生徒に周知する工夫をしていく。											
保健厚生	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持・増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯科受診率が低い。 保健室来室時のニーズに、心の健康問題を抱える生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に興味関心を持ち、自己の健康状態を把握するとともに、自ら改善できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断実施後の事後措置を徹底する。 保健指導の充実を図る。 健康観察による健康状態の把握と関係職員および教育相談部との密な連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察により学級閉鎖等の対応が迅速にできた。（インフルエンザ流行時） 教育相談部と連携して相談活動ができた。 	B	自分の健康状態に関心を持たせ、改善させるようにする方策を考える。											